



レトロな工場にあるようなトグルスイッチや、手づくりのため一枚ずつ表情が違うキッチンのタイルを「決め打ちで持ってくる建築家のセンスが素晴らしい」と絶賛する菅原さん。



個性的な形のソテツのほか、表情豊かな多肉植物が庭を飾る。薄水のような衝立の奥にある洗面所には、実験室で使われている広いシンクを採用。既製品でもスタイリングにより洗練された雰囲気に。



2Fのリビングは妻・宏美さんのアトリエが併設されている。ガラス窓で仕切られており、作業しながらリビングの様子がみられる。

1Fの事務所は正方形の木枠の窓が菅原さんのお気に入りだ。



着物をリメイクするハンドメイドアーティストの妻・宏美さん。ベッドサイドにはサングラスや菅原さんが好むG-Shockほか時計がズラリ。愛息の蒼惟くんが「ボクのサングラス!」と見せてくれた。

ビジネス&プライベートに徹底的 カフェテリア

にこだわった [東京都・菅原邸] のよう家

祖父の自宅兼店舗を建て直した二世帯住宅。1Fは経営する会社の事務所とし、まるで昭和の喫茶店のような木目の温かみがあるカフェテリアのよう。多趣味な主人ならではの間取りや、電源スイッチ、壁のタイル一枚にまでこだわっている。

写真/青木健格(WPP) 文/パンチ広沢

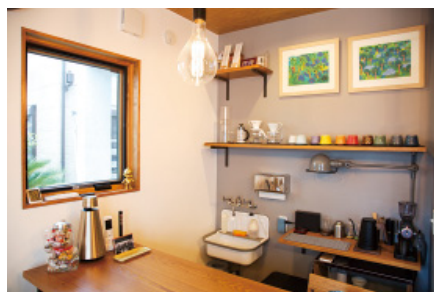
カフェみたいにくつろげる
木目調の事務所

商店街から市道に入った住宅街に突如現れたオシャレなカフェ……と思いきや、実はココ、PR会社を営む菅原敬太さんの事務所兼自宅なのだ。祖父が営んでいたこんにゃく店兼自宅を建て直したのは2021年のこと。

1Fの事務所は昭和をテーマにし、木目を基調にしているという。カウンターは作り付け、テーブルやイス、ソファは大阪のインテリアメーカー「Truck Furniture」で統一。事務用品や仕事の資料は、ウィリアム・モリスのカーテンの奥や、引き戸の中ですっかり収納し、事務所特有の野暮ったさは皆無だ。菅原さんは「たまにカフェと間違っただけの人もいます。私はコーヒー好きで、豆や道具にもそろっているからウマイコーヒーも出せるんですけどね」と笑う。実際、来客があればカフェのようにくつろいでもらうのだとか。

プライベート空間は2階がメイン。文化服装学院の講師も勤める菅原さんは、ファッションも大好きで、玄関には名だたるブランドの靴を「自分が見たいから」という理由で、見せる収納で収め、2Fのワードローブにはよく着るスーツやシャツなど、大量のアイテムを整然と収納する。なるほど、オシャレな人は収納上手でもあるのだ。季節ごとに入れ替える洋服は、屋根裏にある6畳ほどのスペースに収納する。一方、家族の憩いの

場であるリビングは、カーテン1枚から妻の宏美さんのこだわりがぎゅっしり。とくに趣味と実益を兼ねたアトリエが自慢だ。大きなダイニングテーブルは食事だけでなく仕事にも欠かせない。菅原家は、好きなものだけに囲まれて暮らしていて羨ましい!「感覚が合う建築家との出会いが大きかった。電気スイッチひとつでも、私の希望以上のものを提示してくれる方でした」と大満足していた。



事務所内は自然光がたっぷり入る。温もりのある木の窓はアメリカ製の『ペラ社』のもので、珍しい正方形だ。



【東京都・菅原邸】

ご主人の菅原敬太さん、妻の宏美さん、息子の蒼惟さんと、祖母が住む二世帯住宅。「日本橋にある、青いタイルが印象的な某ビルにインスパイアされた」という外観は、レトロとモダンが見事に調和。菅原さんの祖父がかつて経営していたこんにゃく店「金亀商店」から連想した、真鍮製の金色の亀のエンブレムを事務所の入り口に掲げている。

